

学校関係者評価書

令和3年10月4日

学校関係者評価委員会作成

第1回学校関係者評価委員会

■ 日時

令和 3 年 9 月 30 日 (木) 19:00～

■ 会場

図書室

■ 参加者

学校関係者評価委員会・学校職員			
元中学校長 横小路 淳一	主任児童委員 榎山 香澄	元中学校長 長澤 光	曲輪田区長 保坂 孝治
上宮地区長 横内 俊武	桃園区長 中込 公雄	PTA副会長 大島 輝洋	PTA母親代表 横内 京子
PTA母親代表 勝 美希	校長 佐野 紳二	教頭 中村 博文	教務主任 河野 太郎

■ 次第・内容

進行・記録: 教務主任(河野)

1	はじめのことば	教務主任	(河野)
2	学校長あいさつ	校長	(佐野)
3	自己紹介		
4	委嘱状交付	校長	(佐野)
5	学校評価結果及び概要説明	教頭	(中村)
	① 自己評価(教職員)結果		
	② 児童アンケート結果		
	③ 質疑応答		
6	意見交換(参加者からの提言等)	座長:	(横小路)
7	おわりのことば	教務主任	(河野)

<質疑応答>

小中一貫について、これまでも取組を進めてきたと思うが、今後さらに発展させていくということは、どんな意味があるのか。

→ これまでの取組をまとめて、各校で足並みをそろえて取組んでいく。

→ 中学校区，小学校4校，中学校1校で教育課程を合わせていくことは非常に難しい。

すり合わせを行い，これまでの取組を共通理解することで，市としての小中一貫教育校を確立していく。目指すものは，目標の共有化と学力の向上が主となる。

<意見交換>

意見1

市の児童委員の会議等で，児童に関わる問題はあがってこない。一方，先生方のアンケートの結果では，地域との連携が薄いととらえている先生が多い。コロナ禍で，地域との交流ができないことも原因かもしれない。地域としても是非何か協力ができればと思う。是非，地域に教えてもらいたいことなどあったら言ってほしい。

意見2

北小学校の児童は，とてもよく挨拶する。中学校へ行くとどうか？中学に行っても挨拶ができる子どもたちであってほしい。小中一貫のいい面が出るのではないか。また，小中学校の学習はつながりがあると思う。小学校の授業が中学校につながるようになれば，小中一貫の成果と言えるだろう。

意見3

挨拶は，北小の児童はよくしてくれる。そんな中でさらに「豊かな心」を育てるには読書も大切だと考える。読書については「88%」が肯定的評価になっているが，その中身はどうか。例えば，「図書館の利用率」「本の内容」「読書を通して何を，どんな力を身につけているか」など，分析を加えていくとさらにアンケートの活用につながると思う。

意見4

携帯を持っている児童が高学年と低学年に多いのは，何か理由があるのだろうか。

→ 学校への持ち込みは禁止しているので，あくまで家庭利用になるが，保護者の考えが影響していると考ええる。

意見5

I T関係に勤務しているが，親がまず正しい情報を受け取る術（すべ）を持っていないとだめだと思う。実際には，親たちも正しく使えていない。親自身が，正しい使用方法を身につけ，子どもたちに伝えていくことが重要になる。そのためには，親への情報モラルに関わる学習の機会を設ける必要があり，学校でその機会をつくっていただければと思う。

→ 本校でも，今年度もスマートホンの活用や情報モラルに関する講演会を保護者向け，あるいは児童向けで行う予定でいた。しかしながら，コロナウイルス感染拡大を受け，中止にせざるを得なかったので，今後は是非情報モラルに関わる学習に機会をつくっていききたい。

意見6

自主学習の取組については、家庭学習の方法も様々。子どもたちが中学校に行っても学習習慣を身につけていけるよう、家庭学習の方法についても、小中で統一できるとよいと思う。

また、学校でいくつもの課題を一度に解決していくことは難しい。今回の報告P13のように、一つのことに重点を絞って取組むのはよいことだと思う。成果を期待している。

こうした小中一貫の取組は、先生方だけでなく、児童生徒にも情報共有することも大切。小学校の子どもが中学校に行っても「こんな活動があるんだ」と頭で理解していると、きっと中1ギャップなどの問題も減っていくだろう。

意見7

小中一貫で統一することはすごいと思う。もっとアピールしてよいと思う。

意見8

朝ごはんを食べていない児童が5%もいる。約10人は多い気もするが、家庭での問題もあると思う。難しい課題だが、なんとかしてあげたい。

意見9

児童数が、ほとんど1クラスでしかも40名近い。先生方が大変だと思うが、コロナ禍で、密にならないようどんな工夫をしているのか。

→ 隣の空き教室を活用し、クラスを2つに分け、教員が真ん中に立ち指導を行っているクラスが多い。また、隣の教室の授業をタブレット端末で撮影しながら、隣の教室に映像を流しながら授業を進める取組も行っている。